

郷土資料館だより

Vol. 24, No. 1

2001.7.1



源兵衛川の昭和30年頃の写真



源兵衛川の現在の写真

源兵衛川 今昔

町中にありながら初夏の夕闇には蛍が舞う源兵衛川。楽寿園の小浜池から流れ出て、せせらぎの音を響かせ、中郷用水温水池に流れこむまでの川辺にはカワセミが飛び、トンボが群れ、アジサイやカンナの花々が咲き乱れる自然豊かな川です。

ここは、親水公園として1992(平成4)年に整備され、上流部は川の中に遊歩道が設けられ、市民の散歩道になっています。夏は子供達が水遊びをして楽しむ場所でもあります。

昭和40年代、小浜池の湧水量が激減した時、水量の減った源兵衛川も瀕死の瀬戸際にありました。水中に白い可憐な花を咲かせていたミシマバイカモも水の汚染と流水量の枯渇で全滅してしまったのです。

「三島の水を取り戻そう」多くの市民はこの頃から湧水について真剣に考え始め、三島市は工業用水の回収水をパイプで小浜池まで引き源兵衛川に落として水量を確保し、これが、源兵衛川がよみがえるきっかけとなったのです。

左上の写真は今から約45年前の源兵衛川、楽寿

園から数メートル下ったところです。同じ場所を撮った今の写真と比べてみてください(右上)。水量の多さに驚かれることでしょう。源兵衛川の上流部周辺は広瀬と呼ばれ、川幅も、もっと広がったものです。

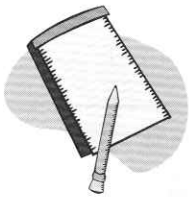
この頃、三島の女性達は川のほとりカワバタで洗濯をしました。カワバタは主婦の社交の場でもありました。

近所のおばあさん達から話を聞くと、昔は広瀬の水量が多く流れも速かったため、棹をさすと棹と一緒に流されたとか、小さな子供が川に落ち、流されて死んだ、などの話を聞きます。

三島を代表する三四呂人形「水辺興談」(野口三四郎作)はここで遊ぶ子供たちをモデルにしたものです。



水辺興談 - 水辺で語るう兄と弟



三島曆研究調査報告 ~三島曆の弘曆について③~

四．三島曆の版行

三島曆は原稿の曆や一部の献上曆を除いては版行曆である。すなわち、木版による刷り曆で、量産し、弘曆してきた。古くから三島曆の木版刷りは文字が細かく美しいことで知られていた。その評判は江戸時代にも続いており、それ故に、三島に立ち寄った折には買い求めてみよう、と思う旅人は多かったという。また、三島宿の本陣(樋口本陣)では、歳暮の贈答品として、宿泊などで関係のある武家や諸侯に贈ったりもしている。この木版曆が河合家においてどのように版行されたものであるかということ述べてみる。やはり、このことについての史料も少ないので明確なことは不明であるが、幕末期に建造された家屋にまつわる伝承や、同家に残存した幕末から明治初年頃の版木等をもとに、知られた範囲でしか報告は出来ない。

現在の河合家が住んでいる家屋は、同家に伝えられる伝承によれば幕末に移築された建物であるという。この移築前の安政年間に、地震により損壊した旧家屋を建て替えたのだったが、建てた直後に雇い人の火の不始末により火災をおこして燃やしてしまったため、急遽、十里木(現在の裾野市十里木)に有って用済みになっていた関所の建物を拝領して移築したものがそれだというのである。現在も正面に堂々と構える式台や奥座敷の造作などには、そうした伝承を裏付けるような点が見られるのであるが、これについてはさらに検証を加える必要があると思う。式台の右側には今も使用している通常の玄関があり、これを入ると土間になっており両側に座敷が分かれている。片方は座敷、中座敷、奥座敷と続いて家族の生活空間となっているが、一方にも部屋があったという。これが版木を彫る職人たちの作業場であったという。ここが三島曆版行の現場だったのだろう。

さて、版木職人はどこの誰で、河合家との雇用関係はどうだったのかという問題である。これについては、平成3・4年度に静岡県教育委員会が行った「三嶋大社関係古文書調査事業」の中で調査し目録化した三島曆版木104点及び引き札等版木11点から考察をしてみた。

版木はもっとも古いものが天保11年(1840)の部分で、これを含めて明治6年(1873)までの旧曆期のものが40点(改曆直後の明治7年太陽曆略歴も含め)で、残りはそれ以降の太陽曆である。因みに、最後

の版木は明治17年(1884)の一枚刷り太陽略曆であった。

版木で注目すべき点は背面に墨書や朱書きで記された文字である。その内容は版木の彫刻師の名前、年号、摺った後の曆編集の際に使用する版木番号等である。特に興味を引かれる彫刻師を列举してみると次のような名前が見える。

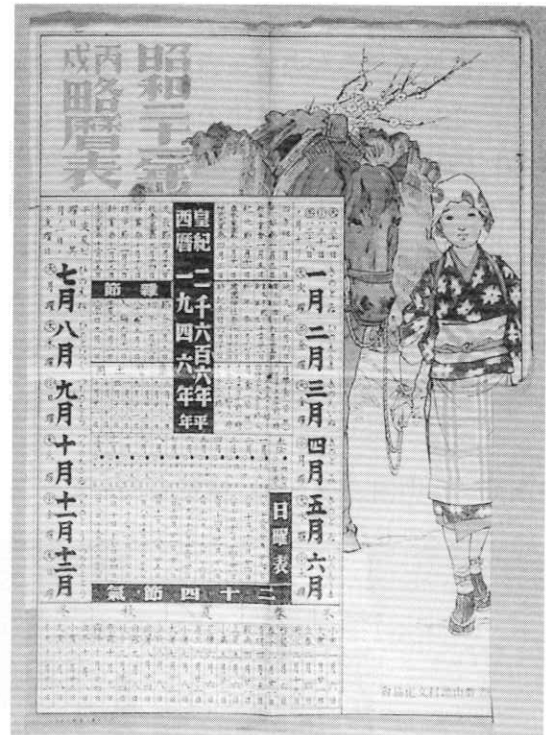


三島曆 嘉永7(1854)、安政6(1859)

- (1) 井口惣左、井口彫(天保13年暦部分、明治12年暦部分)
- (2) 口口小林(明治6年暦部分)
- (3) 沢田彫(明治10年暦部分・計3点)
- (4) 沼津彫(明治10年暦部分・計2点)
- (5) 郵川、村川、沢田郵川、口川(明治11年暦部分、明治12年暦部分・計8点)
- (6) 岡本彫(明治15年暦部分・計2点、明治17年暦部分・計3点)

このように、幕末から明治にかけて河合家には少なくとも数名の彫刻師が居た、もしくは受注を受けていたものと考えられる。井口、村川(あるいは郵川)、岡本は名前であり、沢田(現在の沼津市沢田か)、沼津は彫刻師の居住地であろうと思うが、明らかにはならない。但し、井口については、河合家と同じ社家・社人の一員として宮大工を務めてきた井口家が存在するので、同家が幕末に暦の彫刻を請け負ったものとも考えることも可能である。

ところで、三島暦の原稿だが、貞享の改暦以前は河合家が独自に編んでいたが、貞享以後は江戸幕府に設けられた「天文方」が各地の暦師に配布していたものであり、河合家などをそうした原稿をいただいた上で版行し、頒布することが仕事となっていた。



昭和21年(1946) 略暦表

— おわりに —

以上で三島市の代表的な文化財の一つである三島暦について報告をとりあえず終わることにした。不明瞭な点、舌足らずな箇所は数え上げたら限りがないが、すべて調査・考察不足にもとづくものであり、ご容赦いただきたいと思う。しかし、冒頭より繰り返し述べてきたように、三島という地域の小さな博物館が、そこにしかない独自の資料により博物館としての特徴を展示に生かすためには、三島暦は最高の資料であると思う。それゆえ、これの発掘、調査については今後も継続しなければならないのは言うまでもない。現在も三島暦は常設展示の目玉に位置づけているし、過去2回、特別、企画展も行ってきたのだが、今後もさらに展示スペースを拡大し、深く、かつ分かりやすいものに育てていきたいと考えている。そのためには、今回の拙稿に対して、ご批判、ご教示等が多く寄せられることを期待したい。

(三島市郷土資料館 前館長 杉村 斉)



大宮町 河合家(個人宅)

企画展報告「未来への伝言」

会 期 平成12年10月29日(日)
 ～平成13年2月25日(日)
 入館者数 24,874人
 展示資料数 507点
 展示内容

- ①近年の道具とかつてのくらしの身近な道具を対
比し、20世紀前半と後半の相違を表わした
- ②テレビの時代
モノクロテレビ、カラーテレビまた東京オリ
ピック、博覧会資料
- ③お茶の間と針仕事 ちゃぶ台、紘け台
- ④台 所 桶、樽、氷の冷蔵庫
- ⑤収 納 具 行李、つづら、トランク

- ⑥事務機器 手回し計算機、電話機
- ⑦学用品 ランドセル、教科書など
- ⑧居間調度 防虫用具、冷涼道具など
- ⑨音響機器 蓄音機、電蓄など
- ⑩記憶媒体 フロッピー、ビデオテープなど
- ⑪玩 具 大正時代の玩具など

今回の企画展は様々な年齢層に好評で、それぞ
れの時代に身近に使用してきた道具であり、家族
で訪れた見学者はそれらの道具を通じて思い出や
エピソードを語り合っていました。また、小学校
3年生の社会科单元にも適し、児童からも好評を
得ました。今後、常設展示に活かしていきたいと
思います。



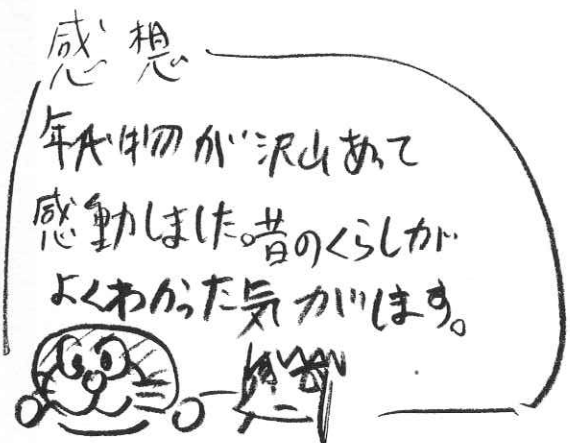
企画展示室への入口



大正時代の遊び



昭和はじめ頃のオルガン



小学生の寄せ書きより

ふるさと講座報告

第3回

「箱根日金道を歩く」

平成12年11月17日(金)

講師 鈴木 勝彦 氏
(文化財保護審議委員)

平成12年度第3回ふるさと講座は、大場と熱海・日金山を結んだ古道「日金道」を歩こうというものでした。あいにくの雨模様の中を、楽寿園駅前口を出発し、函南町大土肥の雷電神社に到着。神社境内で説明を受けたあと、かつての日金道とされていた道をとこところにある庚申塚等の説明を聞きながら歩きました。鬢の沢公民館近くでは延命地藏尊を本尊としたお堂を開けてもらい、2枚の地獄極楽図を拝見させてもらいました。軽井沢公民館で昼食後、日金山墓苑から東光寺を拝観しました。

市民28人参加

コース

楽寿園駅前口→大土肥・雷電神社→平井・不動堂→平井・養徳堂→平井・天地神社→鬢の沢公民館付近→熱海・日金山墓苑→熱海・東光寺→楽寿園駅前口



熱海・日金山 東光寺

第4回

「三島宿を歩く」

平成13年3月23日(金)

講師 迫田 信行 氏
(郷土資料館運営協議会副委員長)

平成12年度第4回ふるさと講座は、「三島宿を歩く」のテーマで開催しました。

当日は、まず郷土資料館にて開催中の「三島宿」展を行程の導入として案内し、宿場復元模型にて全景を把握しました。その後バスにて新町橋に移動し、これより徒歩にて旧街道沿いを千貫樋に向かいました。

午前中は、河合暦家、唐人町、円明寺、御殿神社等を巡り、午後は蓮馨寺より国分寺に向かい、秋葉神社、千貫樋さらに、林光寺、木町観音堂まで歩き、楽寿園までバスで戻りました。

市民35人参加

コース

楽寿園駅前口→郷土資料館→新町橋→河合暦家→唐人町→円明寺→御殿神社→蓮馨寺→国分寺→秋葉神社→千貫樋→林光寺→木町観音堂→楽寿園駅前口



三島市役所



小学生の体験講座



縄文土器作り教室

古代の人々は、どのようにして土器をつくっていたのでしょうか？そんな疑問を持つ小学校5、6年生36人が今年も縄文土器作りに挑戦しました。



1日目7月26日（水）は「土練り」です。赤土・粘土・砂に水を混ぜ、約2時間かけて練りあげました。

2日目7月28日（金）は「成形」です。前回練った粘土を使って円板状の底を作り、底の上に粘土を積み上げ、よく乾燥させます。

3日目8月25日（金）は「焼成」です。縦3m×横2m位の炉を作りカラ炊きをし、オキを作ります。この中に、土器を入れ、約1時間野焼きをします。火がすっかり落ち十分焼かれた土器が赤銅色になったら、自分だけの縄文土器の完成です。

「郷土教室」 第2回「古代の生活を体験しよう」

講師 辻 真人氏（市文化振興課学芸員）

平成12年11月11日（土）小学校4～6年生17名参加

講師より、縄文時代の生活と環境についての説明の後、火起こしの方法についての実演があり、4グループに分かれて、実習を行いました。苦心したが、全グループで火起こしをすることができ、その火を簡易かまどに移し、瓦や鉄板を熱しました。栗、くるみやウズラ卵などを使って縄文クッキーのタネを作り、直径3～5cmの円盤状にしたクッキーのタネを熱した瓦や鉄板で焼き上げました。



「郷土教室」 第3回「昔の道具を使ってみよう」

講師 鈴木辰己氏（郷土資料館運営協議会委員長）

平成12年12月9日（土）小学校4～6年生19名参加

郷土資料館には、三島市のおおぜいの方からいただいたむかしの道具がたくさんあります。そのなかから今回は、むかしの道具をつかって、ふだん食べているお米の収穫を体験してみました。



まず、最初に道具の取り扱いについての説明があり、稲から米飯になる過程の概略を聞きました。その後、脱穀作業に入ります。千歯こぎ、足踏み式脱穀機の名称・使用方法を説明し、順番にわら束を脱穀しました。籾を

箕に集め、扇風機を使用して、わらくずやしいなを選別し、唐箕を使って同様に選別しました。このあと、かまどでまきを燃やしてもち米を蒸し、きねとうすを利用して自分たちで餅つきをしました。

平成12年度郷土資料館事業報告

| 区分 | 事業名 | 内容 | 実施日 | 入館者または参加者 | 講師・備考 | |
|---------|---------------------------|---|---|-------------------|--------------------|---------|
| 企画展示 | 「なかざと村(中郷村)」 | 昭和29年に三島市と合併した中郷村(中郷地区)の歴史と民俗をたどった。 | 3月19日(日) ～5月28日(日) | 18,525名 | 図録作成 | |
| | 「くらしを支えた職人」 | 工業製品があふれ機械化がすすみ、残りわずかとなった職人たちを取り上げ、その仕事を紹介した。 | 7月2日(日) ～9月3日(日) | 11,179名 | 3市共同開催 パンフレット作成 | |
| | 「未来への伝言 ～暮らしを支えたモノ・物～」 | 三島・沼津・富士の代表的な縄文遺跡を取り上げ、縄文人の暮らしと交流を考えた。 | 10月29日(日) ～平成13年 2月25日(日) | 24,874名 | パンフレット作成 | |
| | 「三島宿」 | 江戸時代、東海道の宿場の中でも特ににぎやかで有名だった三島宿の様子を各種資料を通して紹介した。 | 3月18日(日) ～5月27日(日) | 18,782名 | 図録作成 | |
| 教育普及活動 | 縄文土器作り(3回) | 縄文土器作りをとおして古代の生活に対する理解を深める体験教室 | (1)7月26日(水) (2)7月28日(金) (3)8月25日(金) | 小学5・6年生 36名 | | |
| | 夏の郷土学習(野外学習) | 「藍染体験」 | 8月3日(木) | 小学4～6年生 38名 | 高林 保巨 氏 | |
| | 郷土教室(体験教室) | 竹細工づくり | | 7月8日(土) | 小学4～6年生 19名 | 瀬川 到 氏 |
| | | 古代の生活を体験しよう (縄文土器で料理) | | 11月11日(土) | 小学4～6年生 17名 | 辻 真人 氏 |
| | | 昔の道具を使ってみよう | | 12月9日(土) | 小学4～6年生 19名 | 鈴木 辰己 氏 |
| | ふるさと講座 | 三島の名利を訪ねて I | | 10月3日(火) | 34名 | 迫田 信行 氏 |
| | | 三島の名利を訪ねて II | | 10月13日(金) | 31名 | |
| | | 箱根日金道を歩く | | 11月17日(金) | 30名 | 鈴木 勝彦 氏 |
| | | 「三島宿を歩く」 | | 平成13年 3月23日(金) | 35名 | 迫田 信行 氏 |
| | 郷土資料館講座 「日本の名工・職人を訪ねて」 | 企画展「くらしをささえた職人」展関連講演会 | | 7月6日(木) | 14名 | 福尾 野歩 氏 |
| 出版活動 | 「郷土資料館だより」の発行 | 郷土資料館広報及び活動報告など | 年3回 | 各1,100部 | 無料配布 | |
| | 「郷土資料館のしおり」の発行 | 郷土資料館の紹介、広報など | | 3,500部 | 無料配布 | |
| | 企画展関連出版 | 『くらしを支えた職人』パンフレット | | | 1,500部 | 無料配布 |
| | | 『未来への伝言』パンフレット | | | 1,600部 | 無料配布 |
| | | 『三島宿』図録 | | | 1,000部 | 1部 700円 |
| 古文書解説資料 | 『三島宿本陣史料集(13)』 | | | 200部 | 1部 2,100円 | |

★その他の主要事業★

- ・三島宿復元模型 製作 (1/700、1m×3m)
- ・「ふるさと人物」説明板 製作
(五所平之助・大宮町3丁目菰池公園地内)
- ・收藏品修復
屏風修復(柏木俊一画ほか)、「御殿跡之図」額装
三島宿絵図巻物(317号)表装
々 (319号)表装
箱根関所手形裏打(4点)ほか
- ・浮世絵購入
 - ①歌川 広重画「五十三次名所図絵 十二」
三嶋明神一の鳥居
 - ② " 「東海道十二 五十三次之内 三嶋」
 - ③ " 「東海道五十三次 三嶋」『朝霧』
 - ④葛飾 北斎画「春興五十三駄之内 三嶋」
 - ⑤好美斎 東舉画 錦絵「東海道五十三次道中記細見雙六」
 - ⑥三代豊国 「東海道三嶋」(御上洛東海道)

新 収 蔵 資 料

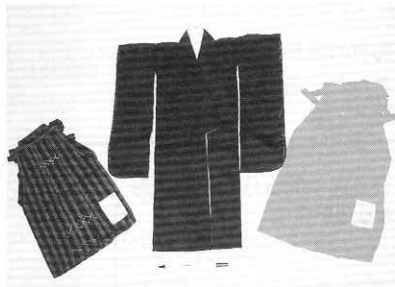
お 知 ら せ

郷土資料館に次の方からご寄贈いただきました。
ご協力ありがとうございました。(敬称略)

平成13年1月～3月寄贈分
杉山 利一 裾野市伊豆島田
金鉱石 1点

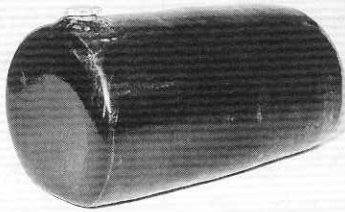
西田字一郎 三島市西本町
裁縫ひな型 10点
(女児袴、馬乗袴など)

杉沢 徳 三島市安久
稲刈り器具(昭和中期) 1点
ふるい 1点
畝さくり(昭和中期) 1点
ドロよけ 1点
鉄びん 1点
一斗樽(大正元年) 1点
もみ干し器 1点
湯たんぽ 1点



裁縫ひな型

大庭 敏男 三島市清住町
パソコン本体NEC PC-8801 1点
懐中時計 1点
(伊豆震災復興記念)



湯たんぽ



懐中時計

■企画展■

「水といきる、水にあそぶ」展
7月8日(日)～9月2日(日)

人々の生活に欠かせない水。
水をめぐる道具類と水への信仰
を紹介する。三島の湧水の昔と
現状を探る。

■夏の郷土学習■

「水の散歩道」

開催日 8月1日(水)

対象者 小学校5～6年生25人
(応募者多数の場合は抽選)

楽寿園を出発点に、源兵衛川
を南に向かって散歩します。

詳しくは広報みしま7月1日号
をご覧ください。

今年度郷土資料館スタッフの紹介

館長 福田 淑子

副主任 畑中めぐみ・遠藤紀子

主事 関 洋和

嘱託学芸員 竹之内 修

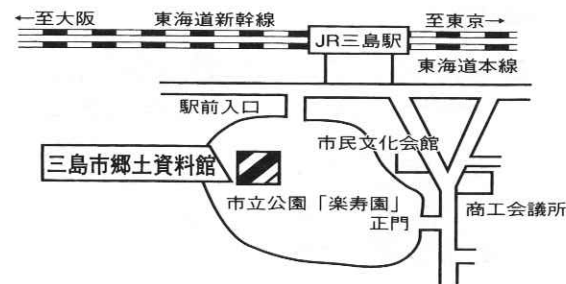
嘱託 山本 武雄

利 用 案 内

休館日 毎週月曜日(祝日の時は翌日、
12月27日～1月2日)

開館時間 午前9時～午後5時00分(4/1～10/31まで)

入場無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)



三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより Vol. 24 No. 1 (第70号)

発行日 平成13年(2001)7月1日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036 三島市一番町19-3

楽寿園内

TEL 0559-71-8228

FAX 0559-81-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo

発行 三島市教育委員会